

特 特定外来生物とは…

特定外来生物とは、外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼす恐れがあるものの中から指定されます。指定された生物の取り扱いについては、輸入・放出・飼育・譲り渡しなどの禁止といった厳しい規制がかかります。

ナガミヒナゲシ



ナガミヒナゲシの群生

特定外来生物ではありませんが、近年生息域を広げており、ポピーに似たオレンジ色の花を咲かせます。

ナガミヒナゲシの生態

4～5月頃に赤色や朱赤色の花を咲かせます。細長い果実の中に大量の種子を含んでおり、1株で10万を超える種子を残すため、非常に繁殖力が高い植物です。群生することで周囲の生態系や在来種に悪影響を及ぼす恐れがあります。

茎や葉にアルカロイド性の有毒成分を含んでおり、素手で触れると肌がかぶれるなどの症状が出る場合があります。



枯れて種子を残す
ナガミヒナゲシ(高崎市提供)

見つけたときの対処法

特定外来生物ではないため、駆除などは必要ありませんが、直接肌に触れないように注意してください。駆除する際は、種子が出ないように市指定の袋に入れて可燃ごみとして出してください。

特 ナガエツルノゲイトウ



ナガエツルノゲイトウの大群落(環境省提供)

南米原産の多年草の水草です。水辺だけでなく陸域まで生息し、日当たりの良い水辺では大群落を形成します。

ナガエツルノゲイトウの生態

茎が1m以上に伸び、枝分かれが盛んなため、放置すると群落が短期間で拡大します。また、わずか数cmの根や茎の断片から再生するなど、拡大力と再生力が非常に強い植物です。



茎から発生する根(群馬県提供)

千切れた根が水流で運ばれた先で再生し、新たな地でも定着できることから拡散力も非常に強い特定外来生物です。

見つけたときの対処法

ナガエツルノゲイトウと疑わしい個体を発見した場合は、発見日時・発見場所・発見した個体の3点を記録し、環境課へ情報提供をお願いします。



特定外来生物に注意!

近年県内では、さまざまな外来生物が確認されており、その中には生態系や観光資源、農業などに影響を及ぼす種も存在します。生活の中で発見した場合には、適切な処置をお願いします。

問い合わせ 環境課(☎@2264)

特 ツヤハダゴマダラカミキリ



オス(左)とメス(右)の比較(群馬県提供)

中国、朝鮮半島北部原産のカミキリムシ科の昆虫で、県内では、令和7年7月に東毛地区で初確認されました。

ツヤハダゴマダラカミキリの生態

アキニレ、カツラ、トチノキ、エンジュ、ポプラなどの多種類の木に寄生します。

卵を産み付ける際にできる産卵痕が特徴的で、すり鉢状をしています。幼虫は生きて木に寄生し、中を食い荒らします。被害が進行すると、木は弱って枯死し、落枝や倒木が発生する恐れがあります。その後5～10月の間に成虫となって木から現れます。



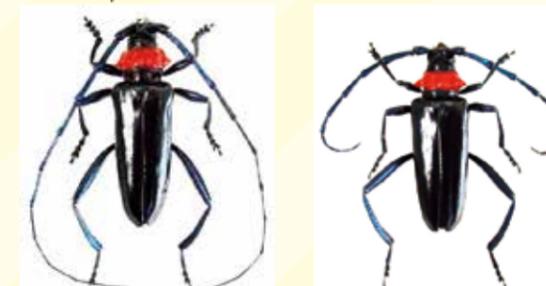
すり鉢状の産卵痕
(群馬県提供)

見つけたときの対処法

成虫を発見した場合、被害拡大防止のため、その場で駆除してください。

また、成虫を駆除した場合や、被害が疑わしい樹木を発見した場合は、環境課まで情報提供をお願いします。

特 クビアカツヤカミキリ



オス(左)とメス(右)の比較(群馬県提供)

東アジア原産のカミキリムシ科の昆虫で、中国・韓国・台湾・ベトナムなどに分布し、現在は市内のほぼ全域で確認されています。

クビアカツヤカミキリの生態

サクラ・ウメ・モモ(ハナモモ)・アンズ・ブルーノなど、バラ科の樹木に卵を産み付け、幼虫が木の中を食い荒らします。

幼虫が木にいる間は、木くずとフンが混ざったかりんとう状のフラスを大量に排出し、6～8月に成虫となって、木から出てきます。繁殖力がとても強いので、早期対応が重要です。被害拡大の防止に協力をお願いします。



排出された大量のフラス
(群馬県提供)

見つけたときの対処法

被害の拡大防止や発生状況の把握のため、フラスや成虫を見つけたら、環境課まで連絡をお願いします。

また、成虫を見つけた際には、踏み潰すか叩き潰して駆除をしてください。